

地 域 間 幹 線 系 統

補助申請書作成ファイル入力マニュアル

平成 30 年度版

1 はじめに

- このファイルは平成 30 年度地域間幹線系統確保維持計画に関する補助制度に基づき作成しておりますが、掲載している様式が現状と異なることがあります。ご了承ください。
- このファイルは、「(道)総政第 33 号様式」及び「(国)様式第 1－8」の 2 種類のシートにより構成されており、「(道)総政第 33 号様式」シートの必要箇所に入力することにより、「(国)様式第 1－8」シートに転記されます。
- 入力前に下記設定を行ってください。
Microsoft Excel 2007 の場合
(1) ①[Office ボタン]-「Excel のオプション (I)」を選択
②「数式」のタブを選択 - [エラーチェックルール]の「領域内の他の数式と矛盾する数式 (N)」のチェックボックスを OFF とする

(2) ①[Office ボタン]-「Excel のオプション (I)」を選択
②「詳細設定」のタブを選択 - [次のシートで作業するときの表示設定 (S)]の「ゼロ値のセルにゼロを表示する (S)」のチェックボックスを OFF とする (各シートごと)。
- 各シートにおいて入力可能なセルは薄い水色の箇所です。また、実車走行キロ算定表のシート中の薄い黄色の箇所は、1 行につき 1 項目のみ入力可能なことを示します。その他のセルには、「ロック」が設定されているため、入力や変更はできません。
- 申請書の提出にあたっては、カラー印刷である必要はありません。
(グレースケール・片面での印刷を推奨します)

2 主な入力方法

- (1) 「1. 交付を受けようとする補助金の額」は、全ての必要な項目を入力すると、自動的に記入されます。
- (2) 「2. 補助金の交付を受けようとする理由及び補助事業実施による効果」について、入力欄に書ききれない場合は、別紙(様式は任意)に記入し、申請書に添付してください。
- (3) 「3. 補助対象期間における損益の実績」は、平成30年度補助期間(平成29年10月1日～平成30年9月30日)の実績に基づき作成した事業報告書等に記載されているものと同一の金額・キロ数を入力してください。
 なお、事業報告書に記載する金額は、消費税相当額を控除した額で記載してください。
- (4) 北北海道、南北海道の2ブロックにまたがる運行系統がある場合は、その系統数を「2ブロックにまたがる運行系統の数」(様式枠外)に入力してください。
- (5) 「地域キロ当たり標準経常費用」は北海道交通企画課で設定しますので、入力不要です。
- (6) 「4. キロ当たり補助対象経常費用及び収益」入力例は、次のとおりです。

4. キロ当たり補助対象経常費用及び収益

補助ブロック名	補助対象事業者の実車走行キロ当たり経常費用(ニ)	地域キロ当たり標準経常費用(ホ)	キロ当たり経常費用(ニ)と(ホ)のいずれか少ない額(ヘ)	キロ当たり経常収益(イ)÷(ノ)＝(ト)
北北海道	円 銭	363 円 58 銭	円 銭	円 銭
南北海道	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭

北北海道、南北海道のいずれかをリスト(セル右側の矢印をクリックすると表示される)より選択。

補助ブロック外に乗入っている系統がある場合は、上段に北北海道、下段に南北海道を選択。

入力された補助ブロックの標準経常費用が自動的に表示される。
 平成30年度は、北北海道 284 円 69 銭
 南北海道 363 円 58 銭

(7) 「5. 地域間幹線系統の運行状況」の入力例は、次のとおりです。

なお、次の事項は、平成30年度地域間幹線系統確保維持計画表2に記載した内容と一致させてください。

- ・補助ブロック名
- ・申請番号
- ・運行系統名
- ・起点、主な経由地及び終点
- ・計画運行日数
- ・計画運行回数
- ・国庫補助金内定額
- ・補助対象期間に係る北海道地域間幹線系統確保維持計画表2に掲げる道負担額

また、「計画運行日数」～「運行割合」の欄は、別に作成する『地域間幹線系統運行割合算定表』及び『実車走行キロ算定表』の記載内容を確認の上、誤りのないよう記入してください。

実績運行回数
= 計画運行回数 + 増便回数 - 運休回数
となります。
増便回数は申請書に記載しないため、
算定の際に注意願います。

(ル)は(ヌ)
以下となることに
注意願います。

「道負担額(ヨ)」の欄は、
円単位で記入することに
注意願います。

5. 地域間幹線系統の運行状況

補助ブロック名	申請番号	運行系統名	運行系統			計画運行日数	実績運行日数	計画運行回数	実績運行回数	運休回数	運休回数(注2) 理由(だし書によりやむを得ないとして大臣が認めた回数)	運行割合 (100%を超える場合は100%を上限とする) (リ+ル)÷(チ)=(ロ)	国庫補助金内定額	地域間幹線系統国庫補助申請額	補助対象期間に係る北海道地域間幹線系統確保維持計画表2に掲げる道負担額						
			起点	主な経由地	終点																
															(チ)	(リ)	(ヌ)	(ル)	(ワ)	(ワ)×(ロ)=(カ)	(ヨ)
北北線	第1号	●●線	△町	●町	●町	65日	365日	1,534.0回	1,534.0回	0.0回	0.0回	100%	15,000.0千円	15,000.0千円	15,000.0千円						
南北線	第2号	△△線	▲町	●町	●町	65日	364日	1,088.0回	1,088.0回	10.0回	0.0回	99%	9,900.0千円	9,900.0千円	10,000.0千円						
釧路	第3号	●●線	○町	○町	○町	65日	365日	979.0回	979.0回	0.0回	0.0回	100%	8,000.0千円	8,000.0千円	8,000.0千円						
						日	日	回	回	回	回	%	千円	千円	千円						
						日	日	回	回	回	回	%	千円	千円	千円						
						日	日	回	回	回	回	%	千円	千円	千円						
						日	日	回	回	回	回	%	千円	千円	千円						
						日	日	回	回	回	回	%	千円	千円	千円						
合計	3	系統											33,000千円	32,900千円	33,000,000円						

- 【やむを得ない事情による運休の例】
- ・地震による道路の断絶により運行できなかったため。
 - ・地震による停電により信号機が作動せず、運行できなかったため。
 - ・豪雨による経路上の橋脚落下により、走行できなかったため。
 - ・多重衝突事故による道路封鎖のため。
- 【事業者都合による運休の例】
- ・当初1月3日の運行も予定していたが、沿線で予定していた行事が中止となり、需要がないと判断して減便した。
 - ・〇〇高校通学者の利用が多い系統で、その高校の定期試験の日程が変更されたことにより、運休した。